



TITLE:

六年來の中國における考古事業

AUTHOR(S):

尹, 達

CITATION:

尹, 達. 六年來の中國における考古事業. 東洋史研究 1956, 15(1): 57-67

ISSUE DATE:

1956-07-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/145875>

RIGHT:

六年來の中國における考古事業

尹

達

一 考古事業の發展

一九四九年中華人民共和國が成立して以來、ここに六年になりますが、中國における考古事業もほかの事業と同様、順調に發展しております。今まで、中國は長期間にわたつて半植民地もしくは植民地の状態下におかれ、考古學もほかの事業と同様、正常な發展を遂げることができませんでした。當時、考古學に従事する人も至つてすくなかつたし、經費も不足がちなばかりでなく、國家も統一されておらず、政治も明朗をかつていたので、調査にしろ發掘にしろ、ことごとくに相當大きな制限を受けざるをえませんでした。中央人民政府が成立してから、文化部には全國の文物工作を一手に管理する文物局が設けられ、中國科學院には考古研

究所、各省及び各地方の政府にはそれぞれ相應な文物管理機構が設置され、各地の博物館も相前後して文物の蒐集や發掘にのりだし、こうして考古工作は發展の基礎が一應できあがつたのであります。

六年このかた、國家の經濟建設の發展にともなつて各地における建築工事がだんだん擴張され、建築敷地に埋藏されている古文化の遺物をあらかじめ發掘整理しなければ建設工事をすゝめられないという事態に立ち至りましたので、考古工作者も時を失せず、建設と歩調をあわせて考古學上の調査や發掘に従事せざるをえないことになりました。しかしながら、今までの考古工作者だけでは餘りにも人數がすくなく、とうてい客觀的需要に應じきれないので、青年考古幹部の養成が焦眉の急務になってきました。それで、

まず北京大學の歴史系に考古學の専門課程をもうけ、系統的に青年考古幹部の養成にのりだしたほか、各綜合大學の歴史系にも大かた「考古學通論」の講座を開き、歴史系の學生に考古學に關する一般知識を授けるようにしました。

しかしながら、各地における考古工作の發展があまりにも早いため、長期養成をもつてしては目前焦眉の急を解決しえず、そのうえ各地における考古工作幹部の業務水準も極めて不そろいの實情にあるので、この事態に適應するため、一九五二年から文化部、科學院及び北京大學で毎年夏期に考古工作人員訓練班をひらくようになり、全國各地から青年幹部をあつめて短期間の教室講義を受けるほか、現地での發掘實習をやらせることにしましたが、これが今年までのところ既に四期を終え、約三百名の卒業生をおくりだしました。現在この三百餘名は二十數個の考古工作隊に分配され、全國各地に向いて當地の建設工事と歩調を合せて工作に従事しています。

この六年間、中國科學院考古研究所では、積極的に北京大學歴史系の考古學専門課程における教育工作に加わり、考古工作人員訓練班における教育工作にも参加し、同時に

歴史系の卒業生二十數名を相ついで吸収し、いろいろな角度からこれを養成してきました。目下のところ研究員と業務上の輔佐員とをあわせてすでに五十名ちかくにのぼり、近いうちになお逐次増加するみこみであります。さらに考古研究所は、國家の建設事業に歩調をあわせて、西安と洛陽にそれぞれ考古工作出張所をもうけ、兩地における考古學上の發掘と整理工作にたずさわっております。今年の冬には、黃河ダムの工事に歩調をあわせて、考古研究所と文化部の文物局によつて黃河ダム考古工作隊を組織し、すでに各地から四十數名の考古工作者をあつめ十數小隊にわかれて、調査工作の第一歩をふみだしております。

要するに、中國の考古工作者は國家の建設の進展に應じて、すでにそれ相應の發展をとげ、人員の上からも組織の上からも今までの事情を一變させたのであります。

二 六年來の收穫

六年來、中國各地からあらゆる時代の文化遺物がたくさん發見されました。それについて、今ここで全部の紹介をするわけにまいりませんが、わたくしのきき及んでいる、

比較的知られた発見をいくつか、簡単に項をわけて紹介しましょう。

中國猿人の出土地である周口店で發掘工作が繼續された結果、また猿人の齒三個と石器が發見されたほか、若干の動物化石が發見されました。一九五四年、山西省の襄汾縣で舊石器時代の遺址が發掘され、人類の齒三個と二千餘點の石器片と、おびただしい動物化石が發見されました。また四川省の資陽と安徽省の泗濱下草灣からは、舊石器時代後期の化石人類が發見されました。

新石器文化の遺址にいたっては、この六年間に約三百カ所も發見されています。これら遺址の分布は極めて廣く、北は内蒙古自治区から南は廣東に至るまで、東は海濱から西は新疆に至るまで、いたる處で新石器文化の遺物が發見されています。しかし、これらの遺址は極く一部分が發掘されただけで、そのほかはまだ調査と採集の緒にいた程度にすぎません。こゝでは、現在までに知られたものにつき、簡単に説明いたしましょう。

目下われわれは、西安の半坡村で、「仰韶文化」の遺址を一つ發掘しつつあります。こゝからは、おびただしい遺物

を發見したばかりでなく、居住用の土造家屋を二種類發見しました。一つは直徑約五メートルの圓形土屋で、もう一つは間口十二メートル半、奥行約二〇メートルの長方形土屋であります。圓形土屋の周圍には、高さ約二〇センチの土塼がのこっており、家のなかにはかまどの跡がありました。長方形の土屋の周圍には、厚さ約一メートル、高さ約五〇センチの土塼がのこっており、塼のなかには木の柱をたてた穴がのこっていました。同じ場所から、百基にのぼる「仰韶文化」の墳墓が發見され、おびただしい副葬の陶器が完形のまま保存されていました。また、この遺址から小さな陶罐が一つ發見されましたが、なかにはもとのままの外殻をもった穀粒がはいっていました。初步的鑑定の結果によると、この穀粒は粟 *Setaria italica* (L.) Beauv. であって、今もなお華北一帯の主食物になっているのであります。これらの出土品は、當時の社會歴史の研究にとって、また「仰韶文化」の具體的内容の系統的探究にとって、極めて重要な資料であります。

これまで、中國の東南一帯から發見された新石器時代の遺址は比較的すくなかったが、この六年間、この一帯から

も多くの新石器時代の遺物が発見され、そのなかの一部分の遺址においてはある程度の發掘工作がおこなわれました。そのうち重要なものは、江蘇省淮陰縣の青蓮岡、江寧縣の湖熟鎮、浙江省杭州の老和山、福建省福州の雲石山などがあります。これらは中國の東南地區における新石器文化の研究にたいし豊富な内容を提供したと同時に、また若干の新しい問題をも提供しています。

河北省曲陽の釣魚台からも新石器時代の遺址を發見しましたが、なかには石斧と石環、赤色陶片、彩色陶片、陶鼎の足などがあります。これは河北省で始めて發見された仰韶文化の遺物であります。河南省信陽の陽山からも新石器時代の遺址が一つ發見されました。この遺址の同一文化層に屬する陶器の特徴としては、彩色陶片があり、光澤ある黑色陶片もあり、陶鼎の殘片もたくさんあり、たゞ陶甕の殘片が見あたらないということであります。湖北省京山の屈家嶺でも新石器時代の遺址を發見しましたが、その陶器の特徴は極めて注目すべきものがあり、龍山式の孔をあけた陶片や黑色陶片や條文の陶片などがあるばかりでなく、少數ではあるが彩色した陶片もまざっていました。これら

の彩色をほどこした陶片の表面はみがいておらず、文様も一般の「仰韶式」彩色陶片のそれと異っており、かえって江蘇省淮安の青蓮岡から發見された彩色陶片と似かよったところがあります。この類型の遺址の發見は極めて重要なことであつて、これは長江流域と黃河流域との新石器時代における相互關係をあきらかにする重要なキーポイントとなるに違いありません。

吉林省の西團山及び河北省の唐山からは、石棺の墳墓がおびただしく發見され、その副葬品のなかには大量の石器や陶器があり、銅器も少しはありました。これは新石器時代から青銅器時代への過渡期の研究にとって極めて重要な資料であります。

今までは、殷代の文化遺跡といえば、おおかた安陽の小屯村附近に局限されており、その他の地區における殷代の遺跡はほとんど知られていないといつてもいいぐらいでしたが、この六年間引きつづき小屯村附近で殷代の墳墓や遺跡を發掘したほか、その他の地區でも多くの殷代遺跡を發見しました。

一九五二年から鄭州市で當地の殷代遺跡の發掘が開始さ

れ、目下なお繼續中ではありますが、ここには極めて豊富な遺物があり、現在までのところ既に極めて重要な遺跡が少なからず発見されております。なかでも、奥行約五メートル、間口約四メートル半の長方形の家屋、鑄銅の遺跡、骨器製作の遺跡、陶器を焼いた窖跡、殷代の墳墓群などをあげることができます。また、卜骨やすこしの字をほった骨片もここから発見されています。鑄銅の遺跡からは、銅渣や炭末が大量に出てきたほか、埴塼や容器ならびに兵器の鑄型などが発見されています。骨器製造場からは骨材が大量に発見され、その大部分は動物の肢骨であるが、人間の大腿骨もあります。そのほか加工用の砥石も発見され、その幾つかには骨器を磨いたさいのくぼみまでのこつています。また骨器の半製品もあり、完成品もあります。大量の遺物や遺跡の特徴からみるに、この遺址は小屯村のそれよりも古いと考えられます。鄭州の二里岡で發掘された殷代遺址の層位ならびに遺物の特徴を分析すると、遺址自體をさらに前後二つの時期に分けることができます。この遺址の發見は、殷商文化の發展を研究する上に極めて重要な手がかりと多數の資料を提供してくれました。

その他、河南省の輝縣、洛陽、陝縣から、陝西省から、山東省の濟南から、河北省の曲陽からも、殷代の遺址が發見されました。これらの發見は、殷代社會生活の研究に對する物質的資料を豊富にしてくれました。

この六年間、各地で周代の墳墓が少なからず發見されています。西安の斗門鎮から西周時代の墳墓が發見されましたが、その墓室のなかには、殷代の習慣に一致する犬を埋めた「腰坑」がありました。ここから發見されたもののなかには銅の鼎・盃及び鐘、ならびに灰釉のついた陶豆があり、銅盃のうえには五十四文字からなる銘文があり、その銘文から周の穆王時代(紀元前十世紀後半)のものであることがわかります。江蘇省丹徒の煙墩山にある西周の墳墓からは鼎・鬲・殷・盤・盃・觥などの銅器や銅製の馬具が發見され、銅殷の一つの表面には百四十六字の銘文があり、その銘文からして周の成王時代(紀元前十一世紀末葉)のものであることがわかります。熱河の凌源海島營子村からは銅器十六點が發見され、その銘文のなかには「屢(燕)侯」などという文字がみえます。その他、山西省洪趙の坊堆村や河南省洛陽の西郊からも西周時代の墳墓が發見されてい

ます。

この六年間に、多くの地方から東周時代の墳墓を発見しました。河南省では洛陽・輝縣・安陽・鄭州・禹縣・陝縣及び靈寶、陝西省では西安と寶鶏、安徽省では壽縣、湖南省では長沙と衡陽などがそうでありますが、ほかに河北省の唐山、邢台及び北京の近郊からも発見されています。安徽省壽縣では今年発見した蔡侯墓のなかに銅器（編鐘・列鼎・戈等に銘文が多い）玉器・漆器等千餘點あり、これは大變重要な発見であります。輝縣ではおびただしい副葬の銅器・金銀象嵌の器や玉器が発見され、鐵製の生産器具もかなり多く発見されています。しかも、発見された車馬坑の出土状態から當時の車制を再現することができます。長沙からは木槨の墳墓が発見され、なかに多くの銅器・陶器・漆器・玉器・木器及び殘網などがあり、字のかいた竹簡も発見されております。また、竹筐のなかからも毛筆・天秤及び分銅が発見され、矢のはいつている木製の箠や竹の弓、木製の楯、革製の甲なども発見されました。洛陽の近郊からは、東周時代の墳墓が多量に発見され、多くの銅器とおびただしい陶器を手に入れました。これら墳墓の時

代の前後、異った時期における墳墓の形制と副葬品の變化をたどっていけば、東周時代のこの方面に關する發展變化の基本法則を組みたてることができます。また、大量の陶器を分析研究すれば、東周墳墓に對する時代區分の標準を見いだすことができます。洛陽にある東周墳墓の附近からは、分布範圍の相當にひろい、内容の豊富な東周文化の堆積が発見されました。なかに鐵製の生産器具があり、陶器や半瓦當の殘片などがあります。四川省の昭化及び巴縣からは、それぞれ丸太をくりぬいて作った舟型の木棺が発見され、副葬品のなかに大量の銅器と秦半兩などがあります。ここにあげましたのは比較的重要な遺跡だけです。その他の各地にも零さいな発見が少なからずありますが、これぐらいの程度にしておきましょう。

この六年間に全国各地からえた漢代の遺跡や遺物の収獲は極めて大きいものがあります。殊に漢代の墳墓発見は多く、發掘された漢代の墳墓だけで、全國通算すれば二千基前後に及んでいます。

われわれは洛陽の西郊で、漢代の河南縣の城址を発見しました。その城基の殘跡は各邊約一四〇〇メートルの正方

形をなし、城壁は版築で築いています。城廓のなかからは、當時の住宅の残跡を発見し、煉瓦で葺いた井戸や倉の跡を見いだし、またそこに多數の漢代の陶片・簡瓦・瓦當ならびに五銖錢を発見しました。この漢城の遺址は目下なお發掘をつづけていますが、その他各地の漢城の遺址は一應の調査をしました。大部分はまだ發掘するに至っておりません。

漢代の墳墓は洛陽でたくさん發見されました。洛陽の燒溝だけでも二百六十數基にのぼっています。その墓制からいいますと、空心埵の墓、土壙の墓、こどもを埋めた瓦棺などがあります。これらの墓は漢代のかかなり長い期間を占めるものであつて、はつきりその時期を考證しうる若干の墓をとつて時期の前後に従つて排列し、その墓の形制と大量にのぼる副葬品の變遷から分析研究をすすめていけば、漢代の墳墓に關する時代區分の標準をまとめあげることができそうです。これは漢代の社會生活の變遷史を研究する上に極めて重要なことであります。空心埵の墓は、安徽省の亳縣、山西省の聞喜及びその他の地方からも發見されています。畫像石の墓は、江蘇省の江寧、安徽省の亳縣、それ

から他省の若干の地方からも發見されました。崖墓も四川地區に少くありません。河北省の望都では、彩色壁畫の漢墓一基が發見され、壁の上に人物や禽獸などがいきいきと描かれていました。湖南省の長沙では、長沙の王族劉驕の墓が發見され、なから漆器・陶器・馬蹄金や木簡などがでてきました。その他の漢墓からは木俑や木車、それから木船の模型などもでてきます。廣東省の廣州市近郊で西漢の木槨墓を發見しましたが、なかには銅器・陶器・釉を施したかたい陶器などがあり、特にめばしい發見としては玻璃の碗・璧・帶鉤及び貫珠などがあります。廣州の漢墓からは、このほかに木製や陶製の船の模型がでています。雲南省の昭通や魯甸で發見されたいくつかの有文埵の墓のなかからは、銅洗・銅盂・鐵器・陶俑・錢及び五銖錢などがでてき、また、石棺も一つ發見され、上面に伏羲と女媧の像がほつてありました。內蒙古自治區綏東の藍虎溝からは「オルドス」青銅器と西漢末の銅鏡とがいつしよに發見され、雲南省晋寧の石寨山では副葬品として銅器・銅鼓・兵器及び西漢の銅鏡などをもつた墓葬が發見されています。

これらの漢代の遺址、ことに多數にのぼる漢墓の發見は、

漢代の社會歴史と實際生活の研究に、いきた、具體的な、しかも多様な資料を大量に提供するものであり、當時の美術・工藝及び交通等各方面の研究にとつても極めて貴重なものであります。

この六年の間にまた、甘肅省永靖の炳靈寺石窟や武威の天梯山石窟寺を發見しています。炳靈寺には北魏から唐代に至る石窟三十五個石龕八十七個あり、もつとも古い題記は延昌二年(紀元五一三年)であります。甘肅の天水では麥積山石窟が調査されました。

河北省の曲陽にある德修寺の廢寺址からは、二千二百餘點にのぼる石の佛像が發見され、そのなかに二百三十數點の紀年像があり、古いものは北魏の神龜三年(紀元五二〇年)、新しいものは唐の天寶九年(紀元七五〇年)におよんでいます。四川省の成都にある萬佛寺の廢寺址からも、六朝から唐代にいたる石像が大量に發見されました。山西省太原の西郊からは三十數點の造像が發見され、そのうち二點は紀年があり、一つは興和二年(紀元五四〇)、もう一つは武定三年(紀元五四五)となっています。

これら石窟と佛像の發見は、佛教史や藝術史の研究にと

つて絶好の資料であります。

魏晉南北朝の墓葬に關するものも、この數年間にいくらか發見されています。廣州市の仔岡で發見された晉墓には、墓埧に永嘉五・六・七年(紀元三一—三二)の紀年があり、墓のなかには漆器・金銀の首飾・黃綠釉を施したかたいた陶製の四耳壺があり、五銖錢及び貨泉などがありました。四川省成都の楊子山にあつた晉墓の埧には「泰始十年」(紀元二七四年)という文字がみられました。江蘇省の宜興では晉朝の名將周處の墓が發見されました。河南省の洛陽では晉朝の賈後の乳母であつた徐美人の墓と永寧二年と太康八年の墓が發見され、徐美人の墓には千言に及ぶ碑文をほつた圭首の石碑がありました。その他、たとえば江蘇省・福建省・湖南省などからも六朝の墳墓が發見され、これらの墓中にはみな副葬品として陶磁器がはいっています。

隋唐から宋元にあつた墳墓も、この六年間に少なからず發見されました。四川省の成都からは宋の火葬墳が發見され、なかから彩釉の陶俑・磁器ならびに買地券などがでてきました。河南省安陽天禧鎮の宋墓及び山西省平定の元墓には、それぞれいきいきとした壁畫が見られました。洛陽

では五百あまりの宋墓と金墓を発見しましたが、そのなかには陶磁器がたくさんありました。

唐宋時代の住居址の調査や發掘に對しては、これまであまり注意しませんでした。この六年來、洛陽にある隋唐城壁の遺址を調査したし、遼寧省鞍山市の陶官屯で金元時代の農家を發見しました。これは當時の社會生活の研究にとつて極めて重要なものであります。今後とも基本建設と歩調をあわせて、逐次にこの方面の工作をも、おし進めていきたいと思つております。

磁器を焼いた窖址は、この六年間に少からず發見されてあります。浙江省蕭山の上董からは晋代の窖址が、湖南省湘陰の鐵罐嘴・江西省景德鎮の石虎灣と勝梅亭及び浙江省の温州からは夫々唐代の窖址が、福建省の晋江・水吉と德化、廣東省陽江の石灣村からは夫々宋代の窖址が發見されてあります。これらの窖址を更に一步進んで發掘・整理・研究していけば、中國磁器工藝史の研究にとつて極めて貴重な實物資料を加えることになりまゝす。

以上、六年來のおもな収獲を簡単に紹介しましたが、材料の把握が不十分なために、紹介すべくしてもらったものも

あり、紹介したのも、實はまだ體系化されぬ資料目錄のようなもので、もう一步掘り下げた総合的な研究も経ていないし、歴史的な研究とも照合した正確な評價を與えてもおりません。

三 現段階における中國考古工作の特徴

この六年來、中國の考古工作は國家の基本建設と密切に結合し、それぞれの地區における建設工事と歩調を一つにして調査と發掘工作をくりひろげてきたわけです。だからそれだけに考古學的發掘工作の特徴も、自らそこにそなわつてきたのであります。

先ず、今日の中國における考古工作の第一の特徴は、一つの地區における全面的かつ系統的な發掘にあります。以前の考古工作者の發掘ぶりを見るに、往々、たゞ一地の、或る種の遺存だけを目あてにして發掘をすすめ、他のものはしばらくあとまわしにするということができました。従つて或る地區における地下の遺存に對する全面的了解は往々にして缺けるところがあり、その遺跡や遺物の歴史的堆積過程に對して必要な注意がはられていない場合がよく

ありました。現在の段階では、基本建設の必要上、或る一地の地下の遺存は全面的に發掘整理していかなければならないので、中國の考古工作者は、地下にある各時代の遺存に對し全面的、かつ眞剣にしことを進めてゆくことができるようになりました。たとえば西安では、新石器時代の遺址を發掘したばかりでなく、殷周秦漢隋唐以來の遺址や墓葬にたいしても同様に發掘をしていかなければなりません。また洛陽の如きは、三千年前にかつて西周の東土の天都であつたし、その後もずっと戰國・曹魏・西晉・北魏・隋・唐・後梁及び後唐など各時代の建都の地であつた關係上、地下には極めて豊富な文化的遺物が埋藏されています。それに殷代の遺物もあるわけであります。この六年來、ここから城壁の遺址、住居の遺址、墳墓などが發見され、各時代における各種の遺物が掘りだされています。

その他、鄭州・長沙などもほぼ似たような事情にあります。

今日の中國における考古工作の第二の特徴は、同一歴史時代に屬する遺跡や遺物の大量發見にあります。漢代の墳墓を例にとつてみても、去年、河南省の洛陽における洪水

防遏工事地區からだけで二百餘基の漢墓が發見され、東北の遼陽市附近からも二百餘基發見されています。そのほか、東北の鞍山市や廣州市の附近からも少なからず漢墓を發見しています。この六年間に全國各地で發見された漢墓は約二千基に及んでいます。これらの資料は墓制ならびに漢代の副葬品の研究に對して極めて豊富な資料を提供しました。その他、戰國時代の墓葬、新石器時代の遺址についてもほぼ似たような事情にあります。

同一歴史時代に屬する遺物の、このような大量な發見は、いきおいその中の典型的な特定の遺存のいちはやき整理と發表を要求すると同時に、大量にのぼる資料にもとづいて一應の綜合的研究をいちはやく進めるよう要求されます。こうして始めて考古工作の水準が逐次に高められてゆくわけです。そうしなければ、材料はふえてゆくばかりで、やがてぼうだいな、亂雜かつ無秩序な資料の山に埋もれてしまひ、一應の系統的な知識すら得られなくなるのは必然であります。

目下の中國考古事業におけるもう一つの顯著な現象は、調査發掘工作が基本建設の需要に、なお十分に應じきれな

いということであります。多数の考古工作者が長期間にわたつて調査と發掘に忙殺されているにもかかわらず。なおかつおくれずに任務を完成することができないのであります。従つて、室内の整理は發掘工作にくらべて遙かにおくれており、報告書の出版工作に至つては、なおさら客觀的需要においつけない實情にあります。そのおもな原因は、中國の考古事業の發展がわりあいに速く、在來の老考古學者の数があまりにすくなく、青年考古學者はいまだ成長の段階にあるため、これが工作の進展に相當な困難をきたしているのであります。

叙上の特徴にたいし、中國の考古學者は工作改善の方策を目下研究中であるが、たとえば、目下の事情のもとに青年考古工作者のもつと能率的な養成方法を見出すこと、大規模な調査と發掘の組織方法を研究して、田野における工作能率を高める一方、整理工作の手續を短縮し、ぼうだいな資料の整理方法を研究して、時を失せず報告書を作りあげることなどであります。

われわれは實際工作のなかで、これらの困難を解決してゆく方途をさがし、各國の考古學者から貴重な體驗をくみ

とり、われわれの遭遇した實際の事情にてらし、さしあつての重大な困難を突破してゆくつもりであります。

一九五五年十一月二十三日稿

明代滿蒙史料 (明實錄抄) A5判

(刊 既) 滿洲篇 一 豫約價 八〇〇圓
滿洲篇 二・三・四 豫約價 各九〇〇圓
蒙古篇 二・三・四 豫約價 各九〇〇圓

皇明實錄の中から蒙古・滿洲諸民族に關する一切の記事及び明朝の政治・經濟・軍事等にわたる對滿蒙政策をもあわせて抄録し、京大本をもとに宮内廳圖書館本・上野圖書館本・東洋文庫本及び梁鴻志本を彼此對校したものである。全十五卷、滿洲篇六冊、蒙古篇九冊。各冊約七百頁。別に總索引一冊の豫定。たゞし蒙古篇一は最終頒布。頒布部數極めて僅少につき至急豫約申込まれたし。

京都大学東洋史研究室内

滿蒙史料刊行會